

## 利尻島におけるオオカラモズの観察記録

宮本誠一郎

〒097-1201 北海道礼文郡礼文町香深入舟 レブンクル自然館

### Observational Record of Chinese Great-grey Shrike, *Lanius sphenocercus*, from Rishiri Island, Northern Hokkaido

Seiichirou MIYAMOTO

The natural REBUNCLE, Kafuka, Rebus Is., Hokkaido, 097-1201 Japan

**Keywords:** new record, *Lanius sphenocercus*, Rishiri Island

利尻島において確認されているモズ科は、これまでモズ *Lanius bucephalus*, アカモズ *L. cristatus*, オオモズ *L. excubitor* の3種であった(寺沢, 2000; 小杉, 2010)。筆者は2011年5月にオオカラモズ *L. sphenocercus* を利尻町仙法志にて確認したので、以下のとおり報告する。なお、本種の同定にあたり、田牧和広さん(利尻富士町鬼脇)に情報提供いただいたほか、小杉和樹さん(利尻島自然情報センター)に本稿の校閲をいただいた。ここにお名前を記して感謝したい。

2011年5月4日(午前6時58分)、筆者は利尻町仙法志の利尻町立博物館付近の電線に留まる比較的大型のモズ類1羽を発見した。車外に出て撮影を行ったところ(Fig. 1a)、この個体はすぐに奥の草原の立ち枯れたオオイタドリへと移動した(Fig. 1b, 1c)。この場所は車道から数十m離れた場所であるため、それ以上の追跡を行わず、道路脇から7倍の双眼鏡(ビクセン社)による観察と撮影を続けた。オオイタドリに留まった本個体は時々地面に降り、再び同じオオイタドリに戻る動作を2度ほど

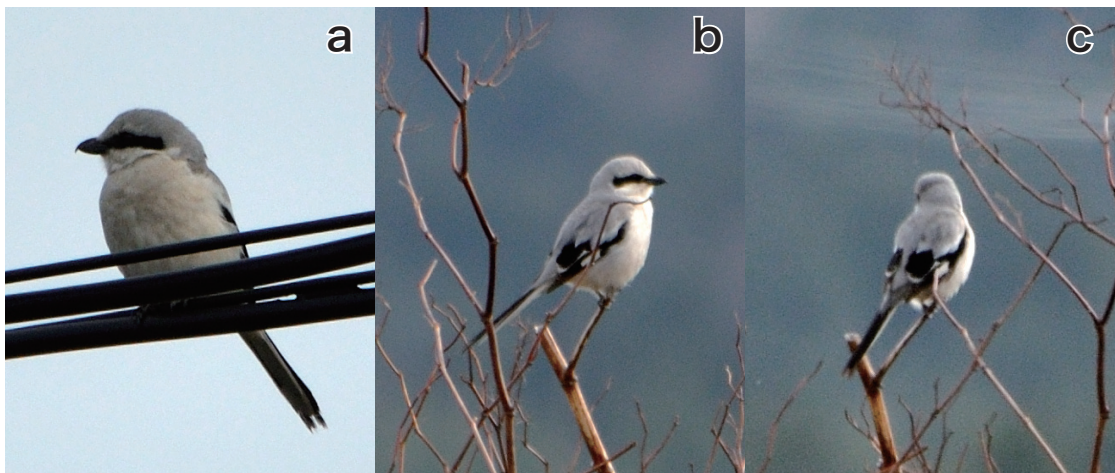


Fig. 1. *Lanius sphenocercus* observed at Senhoshi, Rishiri Island.

繰り返し、なにか餌を採っているように見えたが、はっきりと双眼鏡では確認できなかった。4分ほど観察を続けた後、この個体はさらに遠方へと飛び去り見えなくなったため、観察を終了した。

観察された個体はオオモズよりもかなり大きく感じられ、撮影写真からは(1)灰色の腰部、(2)比較的大きな初列風切基部の白斑、(3)先端部のほか、基部にも白斑が認められる次列風切、の特徴が確認されたことから、オオカラモズと判断された。オオカラモズには、チベット高原東部地方の *L. s. giganteus*、中国西部の *L. s. sphenocercus* の2亜種が認められている (Lei *et al.*, 2004; Brazil, 2009)。観察された個体は、白い眉斑が不明瞭ではあるが、頭部から背部までが明灰色を呈するため、国内で記録されている *L. s. sphenocercus* と思われた。本種は北海道では迷鳥とされ (藤巻, 2010)、北海道北部では天売島における記録があるが (寺沢, 2000)、利尻島からは初めての記録となった。オオカラモズに似たオオモズは、田牧ほか (2006) では本島において11例の記録があり、今後、オオ

カラモズの飛来も含め、注意深く観察していく必要がある。

#### 参考文献

- Brazil, M., 2009. *Birds of East Asia*. Princeton University Press. 528pp.
- 藤巻裕蔵, 2010. 北海道鳥類目録改訂3版. 極東研究研究会. 美唄. 74pp.
- 小杉和樹, 2010. 利尻島の野鳥リスト. 利尻島自然情報センター. 自刊.
- Lei, F.-M., A. Kristin & H.-F. Zhao, 2004. Morphology and distribution of the Chinese Grey Shrike (*Lanius sphenocercus*) in China. *Biological lett*, 41(2): 175–180.
- 日本鳥類目録編集委員会, 2000. 日本鳥類目録. 改訂第6版. 日本鳥学会, 京都. 345pp.
- 田牧和広・小杉和樹・佐藤雅彦, 2006. 利尻島における鳥類の新分布および稀少種の記録(4). 利尻研究, (25): 33-36.
- 寺沢孝毅, 2000. 北海道 島の野鳥. 北海道新聞社. 札幌. 163pp.